

事業報告書

平成30年度

(第11期事業年度)

自 平成30年 4月 1日

至 平成31年 3月31日

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

I 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の概要

1 設立目的

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構は、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

2 事業内容

- (1) 医療の提供に関すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究に関すること。
- (3) 医療に関する技術者の研修に関すること。
- (4) 医療に関する地域への支援に関すること。
- (5) 災害時における医療救護に関すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

3 沿革

平成 20 年 4 月 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構設立

- ・山形県立日本海病院を日本海総合病院として開院
- ・酒田市立酒田病院を日本海総合病院酒田医療センターとして開院

平成 30 年 4 月 酒田市立八幡病院の統合等

- ・酒田市立八幡病院等を統合、日本海八幡クリニック、升田診療所、青沢診療所、松山診療所、地見興屋診療所及び飛島診療所を運営開始
- ・酒田医療センターを日本海酒田リハビリテーション病院に改名

4 設立根拠法

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）

5 所在地（平成 30 年 4 月 1 日現在）

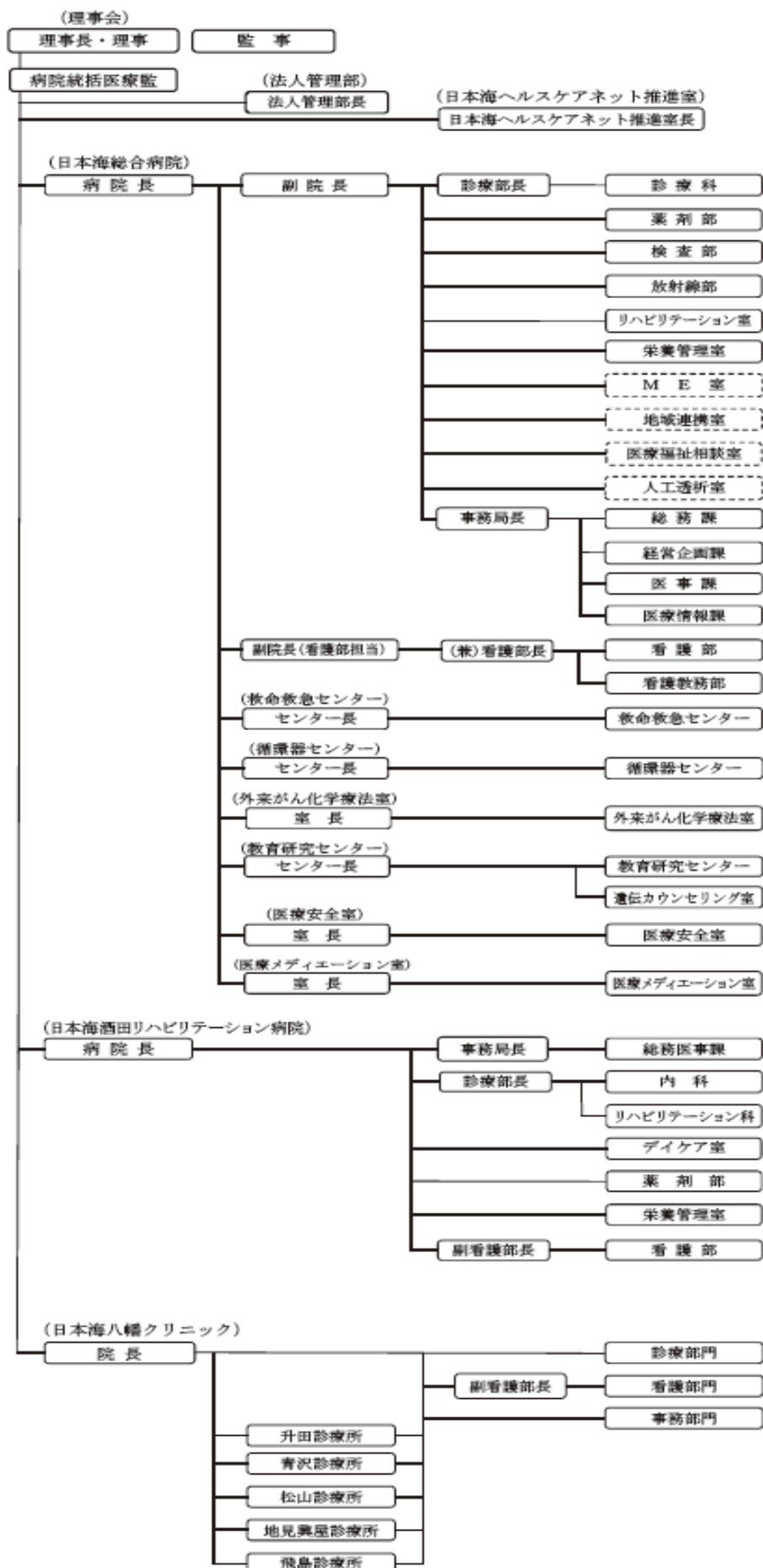
- (1) 法人の主たる事務所 酒田市あきほ町 30 番地
- (2) 設置、運営する病院及び診療所

日本海総合病院	酒田市あきほ町 30 番地
日本海酒田リハビリテーション病院	酒田市千石町二丁目 3 番 20 号
日本海八幡クリニック	酒田市小泉字前田 37 番地
升田診療所	酒田市升田字東向 16 番地
青沢診療所	酒田市北青沢字家の前 280 番地
松山診療所	酒田市字西田 8 番地の 1
地見興屋診療所	酒田市地見興屋字前割 9 番地の 1
飛島診療所	酒田市飛島字勝浦甲 66 番地

6 役員（平成30年4月1日現在）

役職	氏名	任期	経歴	備考
理事長	栗谷 義樹	平成28年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成20年4月 日本海総合病院、酒田医療センタ ー病院長 平成28年4月 現職	病院統括医療監
理事	島貫 隆夫	平成30年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成26年4月 日本海総合病院院長代理 平成28年4月 現職	日本海総合病院 病院長
理事	鈴木 晃	平成30年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成26年4月 現職	日本海酒田リハ ビリテーション 病院 病院長
理事	小熊 正樹	平成30年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成20年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理事	内村 文昭	平成30年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成26年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理事	齊藤 宗一	平成30年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成22年4月 日本海総合病院診療部長 平成26年4月 現職	日本海総合病院 副院長
理事	中村 美穂	平成30年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成27年4月 日本海総合病院副看護部長 平成30年4月 現職	日本海総合病院 副院長 (看護部担当)
理事	五十嵐 誠一	平成30年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成28年4月 山形県庄内総合支庁総務企画部 総務課長 平成29年4月 現職	法人管理部長
監事	齋藤 俊勝	平成30年4月1日 ～ 令和元年度につい ての財務諸表の承 認の日	昭和48年6月 公認会計士齋藤俊勝事務所 代表取締役 平成20年4月 現職	公認会計士
監事	加藤 栄	平成30年4月1日 ～ 令和元年度につい ての財務諸表の承 認の日	平成24年8月 山形海区漁業調整委員会 会長 平成20年4月 現職	弁護士

7 組織（平成 30 年 4 月 1 日現在）



※破線の組織は、室長以外は他部門に所属。(M E 室⇒経営企画課、地域連携室⇒看護部、医療福祉相談室⇒医事課)

8 資本金の状況（平成31年3月31日現在）

	平成29年度 (平成30年3月31日)	平成30年度 (平成31年3月31日)	増 減
	資本金合計	17,230,662,678円	18,797,310,029円
山形県出資金	10,205,772,307円	10,926,926,307円	721,154,000円
酒田市出資金	7,024,890,371円	7,870,383,722円	845,493,351円

9 常勤職員の状況（平成31年3月31日現在）

病 院		日本海総合病院			日本海酒田リハビリテ ーション病院			八幡 クリニ ック等	計		
		H29	H30	増減	H29	H30	増減	H30	H29	H30	増減
医師・ 歯科医師	職員数	148	152	4	4	4	0	2	152	158	6
	平均年齢	39.4	39.7	0.3	53.8	55.5	1.0	48.0	39.8	40.2	0.4
医療 技術員	職員数	144	160	16	43	46	3	1	187	207	20
	平均年齢	37.7	38.0	0.3	31.0	30.6	△0.4	31.0	36.2	36.3	0.1
看護・ 介護職員	職員数	574	584	10	55	54	△1	9	629	647	18
	平均年齢	38.5	39.1	0.6	44.3	45.6	1.3	53.9	39.0	39.9	0.9
事務職員	職員数	45	44	△1	4	4	0	3	49	51	2
	平均年齢	39.6	40.4	0.8	48.3	48.3	0.0	49.7	40.3	41.6	1.3
スタッフ 職員	職員数	39	36	△3	5	5	0	0	44	41	△3
	平均年齢	45.3	46.0	0.7	47.0	48.0	1.0	0	45.5	46.2	0.7
計	職員数	950	976	26	111	113	2	15	1061	1104	43
	平均年齢	38.9	39.4	0.5	39.8	40.1	0.3	50.7	39.0	39.6	0.6
法人職員	職員数	946	971	25	108	111	3	11	1054	1093	39
	平均年齢	38.8	39.3	0.5	39.8	40.0	0.2	52.8	38.9	39.5	0.6
県派遣 職員	職員数	4	4	0	0	0	0	0	4	4	0
	平均年齢	55.3	55.3	0.0	—	—	—	—	55.3	55.3	0.0
市派遣 職員	職員数	0	1	1	3	2	△1	4	3	7	4
	平均年齢	—	57	—	43.3	43.0	△0.3	45.0	43.3	46.1	2.8

Ⅱ 平成30年度の財務情報

1 財務諸表の要約

(1) 貸借対照表

(百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
固定資産	30,493	固定負債	15,218
有形固定資産	21,822	資産見返負債	80
無形固定資産	75	長期借入金	6,781
投資その他資産	8,597	移行前地方債償還債務	2,143
流動資産	14,552	長期寄付金債務	7
現金及び預金	8,488	引当金	6,207
有価証券	2,500	流動負債	5,275
未収入金	3,461	一年内返済予定長期借入金	817
たな卸資産	85	一年内返済予定移行前地方債償還債務	628
その他	18	未払金及び未払費用	3,128
		預り金	82
		引当金	620
		負債合計	20,493
		純資産の部	金額
		資本金	18,797
		資本剰余金	2,782
		利益剰余金	2,974
		純資産合計	24,553
資産合計	45,046	負債純資産合計	45,046

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(2) 損益計算書

(百万円)

科目	金額
営業収益	21,007
営業費用	20,415
営業外収益	1,217
営業外費用	1,069
經常利益	739
臨時利益	20
臨時損失	15
当期純利益	744

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(3) キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

科 目	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	2,769
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,087
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	1,333
IV 資金増加額	15
V 資金期首残高	6,572
VI 資金期末残高	6,588

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

(4) 行政サービスコスト計算書 (百万円)

科 目	金 額
I 業務費用	941
損益計算書上の費用	21,500
自己収入等 (控除)	△ 20,559
II 損益外減価償却相当額	19
III 機会費用	6
IV 行政サービスコスト	966

※計数はそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは一致しないものがある。

2 財務諸表の概要

主要な財務データの前年度比較・分析 (百万円)

区 分	平成 29 年度	平成 30 年度	増 減
当期純利益	808	744	△ 64
資 産	41,629	45,046	3,417
負 債	19,367	20,493	1,126
業務活動によるキャッシュ・フロー	3,249	2,769	△ 480
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 426	△ 4,087	△ 3,661
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 74	1,333	1,407

(当期総利益)

職員数の増加やC型肝炎新薬処方増加などにより、総収益 222 億 44 百万円に対し総費用 215 億で当期純利益は 7 億 44 百万円となり、前年比で 64 百万円減少した。

(資産)

平成 30 年度末時点の資産合計は、前年比で 34 億 17 百万円増加した。これは、現金預金などの流動資産が 49 億 40 百万円減、投資有価証券などの固定資産が 83 億 57 百万円増となったことが主な要因である。

(負債)

平成30年度末時点の負債合計は、前年比で11億26百万円増加した。これは、未払金などの流動負債が9億36百万円増、退職給付引当金などの固定負債が1億89百万円増となったことが主な要因である。

(業務活動によるキャッシュ・フロー)

平成30年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、前年比で4億80百万円の収入減となった。これは、前年度と比較して人件費の支出が3億92百万円増となったことが主な要因である。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

平成30年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、前年比で36億61百万円の収入減となった。これは、前年度と比較して有価証券の取得による支出が31億65百万円増となったことが主な要因である。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

平成30年度の財務活動によるキャッシュ・フローは、前年比で14億07百万円の収入増となった。これは、前年度と比較して長期借入金収入が5億64百万円増、移行前地方債元金償還金の支出が4億90百万円減、金銭出資の受入による収入が4億10百万円増となったことが主な要因である。

3 重要な施設等の整備等の状況

- ・Ⅲ－第1－2－(1)イ (16ページ)
- ・Ⅲ－第7－3 (34ページ) 参照

4 予算及び決算の概要

- ・Ⅲ－第3－1 (29ページ) 参照

5 経費の削減及び効率化に関する目標及びその達成状況

- ・Ⅲ－第2－3(2) (28ページ) 参照

Ⅲ 平成30年度の事業概要

日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院及び日本海八幡クリニック等診療所は、将来にわたり持続可能な経営に向けて努力するとともに、「安心、信頼、高度な医療提供」及び「保健、医療、福祉の地域連携」の基本理念に基づいた医療を提供するため、以下のような取組みを行った。

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 病床機能の分化・連携

(1) 日本海総合病院の機能

「高度急性期」医療機能を有し、急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向け、次表のような診療密度が特に高い医療を提供した。

【日本海総合病院の機能】

項目	概要										
許可病床数	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">一般病床</td> <td style="text-align: right;">642床</td> </tr> <tr> <td>（うち、救命救急センター</td> <td style="text-align: right;">24床）</td> </tr> <tr> <td>感染症病床</td> <td style="text-align: right;">4床</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border-top: 1px solid black;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: right;">646床</td> </tr> </table>	一般病床	642床	（うち、救命救急センター	24床）	感染症病床	4床			合 計	646床
一般病床	642床										
（うち、救命救急センター	24床）										
感染症病床	4床										
合 計	646床										
標榜科 (27診療科)	内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、緩和ケア内科、外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科										
診療機能等	<ul style="list-style-type: none"> ・救命救急センター（ICU、HCU） ・PETセンター ・外来化学療法室 ・LDR室（陣痛・分娩・回復室） ・未熟児室 ・認知症疾患医療センター ・特殊診察室及び感染症室（陰圧・陽圧室） ・人工透析室 ・ハイブリッド手術室 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・災害拠点病院 ・へき地医療拠点病院 ・臨床研修病院 <p style="text-align: right;">など</p>										

(2) 日本海酒田リハビリテーション病院の機能

急性期を経過した患者について、次のような医療を提供した。

ア 「回復期」医療機能を有し、在宅復帰に向けた医療及びADL（日常生活動作）の向上を目的としたリハビリテーションを提供した。

イ 「慢性期」医療機能を有し、長期にわたり療養を必要とする患者及び重度障がい者等の受け入れを行った。

【日本海酒田リハビリテーション病院の機能】

項目	概要								
許可病床数	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">医療療養型療養病床</td> <td style="text-align: right;">35床</td> </tr> <tr> <td>回復期リハビリテーション病床</td> <td style="text-align: right;">79床</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border-top: 1px solid black; text-align: center;">合 計</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">114床</td> </tr> </table>	医療療養型療養病床	35床	回復期リハビリテーション病床	79床	合 計			114床
医療療養型療養病床	35床								
回復期リハビリテーション病床	79床								
合 計									
	114床								
標榜科 (2診療科)	内科、リハビリテーション科								
診療機能等	<ul style="list-style-type: none"> ・回復期リハビリテーション ・通所リハビリテーション ・在宅重症難病患者一時入院機能 ・機能訓練室 ・デイケア室 ・臨床研修病院 <p style="text-align: right;">など</p>								

(3) 日本海八幡クリニック等診療所の機能

日本海八幡クリニック等診療所は、それぞれの地域における唯一の医療機関として、日常的な病気やけが等の患者に対して医療を提供した。

【日本海八幡クリニック】

項目	概要
標榜科（4診療科）	内科、外科、整形外科、リハビリテーション科
診療機能等	・運動器・呼吸器・脳血管疾患等リハビリテーション ・訪問診療、訪問看護 ・飛島診療所の遠隔診療

升田診療所

項目	概要
標榜科	内科

青沢診療所

項目	概要
標榜科	内科

松山診療所

項目	概要
標榜科（2診療科）	内科、外科
診療機能等	・訪問診療

地見興屋診療所

項目	概要
標榜科（2診療科）	内科、外科

飛島診療所

項目	概要
標榜科（2診療科）	内科、外科

2 高度専門医療・回復期医療の提供及び医療水準の向上

(1) 高度専門医療・回復期医療等の充実・強化

ア 診療体制の充実

(ア) 救急医療(日本海総合病院)

- a 庄内二次医療圏で唯一の救命救急センターとして、24時間365日、地域に信頼される医療の提供に努めた。

【実績】救命救急センター延べ患者数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
23,619 名	23,775 名	23,164 名

- b 酒田地区広域行政組合及び鶴岡市消防本部との連携を強化し、救急医療の充実に努めるため、救急医療講演会を開催した。

【実績】救急医療講演会

実施日等	研修内容	参加人数
H30.12.7 日本海総合 病院講堂	「山形県の救急医療の現状」 山形大学医学部 准教授 山形大学医学部附属病院 救急部長 山形県救急業務高度化推進協議会 副会長 中根 正樹 氏	73 名

- c 救命救急センターの機能強化のため、一般社団法人酒田地区医師会十全堂と連携し、平日夜間救急外来を継続して行った。

【実績】酒田地区医師会診療支援による延べ患者数

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
小 児 科	585名	436名	300名
そ の 他	1,081名	824名	627名

(イ) がん医療(日本海総合病院)

- a 地域がん診療連携拠点病院として、手術、放射線治療及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療を提供した。

【実績】手術、放射線療法、外来化学療法の件数

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
手術	1,093件	1,140件	1,173件
放射線療法	7,931件	7,438件	6,594件
外来化学療法(延べ件数)	4,167件	5,122件	5,749件

- b 高度専門的ながん医療を提供するため、高精度放射線治療装置(I M R T)の導入に向け放射線治療棟の整備を行った。

c 患者の病態に応じ、より適切で効果的ながん医療を提供するため、専門的な知識及び技能を有する医療従事者（がん相談員）を「医療・福祉センター」に配置するとともに、従事者を専門研修に参加させ体制の充実を図った。

【実績】がん相談件数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
1,142件	1,183件	1,220件

d 早期に適切な緩和ケアを提供するため、がん診療サポートチームを中心に、病棟回診及び緩和ケア外来を継続して実施し、緩和医療の充実を図った。また、医師に対する緩和ケア研修会を開催するなど体制の強化を図った。

【実績】緩和ケア件数

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
病棟回診	299 名	351 名	370 名
緩和ケア外来	135 名	186 名	151 名

【実績】緩和ケア研修会

	平成 28 年度			平成 29 年度			平成 30 年度		
	受講者数	対象者数	受講率	受講者数	対象者数	受講率	受講者数	対象者数	受講率
がん患者の主治医や担当医となる医師	61 名	64 名	92.4%	63 名	66 名	95.5%	60 名	61 名	98.4%
研修医～卒後 5 年目までの医師	34 名	34 名	100.0%	40 名	42 名	95.2%	40 名	56 名	71.4%
合計	95 名	98 名	96.9%	103 名	108 名	95.4%	100 名	117 名	85.5%

e 院内がん登録及び地域がん登録について、地域がん診療連携拠点病院として、次のおりがん登録を行い、がん対策の進展に貢献した。

【実績】がん登録件数 ※平成29年度から地域がん登録は全国がん登録に変更

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
院内がん登録	1,709件	1,761件	1,978件
地域がん登録	1,661件	—	—
全国がん登録	—	1,778件	2,007件

(ウ)脳卒中・急性心筋梗塞(日本海総合病院)

- a 機能回復のため、高度専門的な内科的又は外科的治療を速やかに行い、早期にリハビリテーションを開始するよう努めた。また、休日のリハビリテーションを継続して実施した。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況 ※H28年10月～休日の脳血管リハ開始

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
	実患者数	単位数 (回数)	実患者数	単位数 (回数)	実患者数	単位数 (回数)
脳血管疾患	772 名	42,652 回	756 名	53,943 回	790 名	51,086 回
心大血管疾患	752 名	19,051 回	670 名	18,139 回	772 名	18,487 回

【実績】休日のリハビリテーション実施状況

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
	実患者数	単位数 (回数)	実患者数	単位数 (回数)	実患者数	単位数 (回数)
脳血管疾患	330 名	1,493 回	622 名	3,387 回	684 名	6,218 回
心大血管疾患	494 名	1,357 回	555 名	2,162 回	603 名	2,046 回

- b 急性心筋梗塞の救急搬送患者に対しては、速やかに集中治療室に転送し、迅速な救命治療を実施した。また、術後の速やかなリハビリテーションの開始により患者の機能回復に努めた。平成31年2月に酒田市が整備した12誘導心電図伝送装置を活用し、Door to balloon time90分以内を実践した。

【実績】急性心筋梗塞に対する経皮的冠動脈ステント留置術件数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
15 件	22 件	29 件

・Door to balloon time90分以内：病院到着時から、カテーテル治療による血流再開までの時間

(エ) 糖尿病(日本海総合病院)

医師、看護師、管理栄養士等が協働し、治療又は生活習慣改善のため、糖尿病教室等の患者教育・指導を次のとおり行った。

【実績】糖尿病教室

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
開催回数	19 回	15 回	15 回
参加人数	69 名	44 名	43 名

【実績】糖尿病透析予防指導の実患者数、指導回数

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
実患者数	6 名	8 名	6 名
指導回数	19 回	19 回	17 回

【実績】教育入院患者数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
64 名	68 名	84 名

【実績】個別栄養指導件数

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
入院	253 件	257 件	332 件
外来	296 件	350 件	342 件
合計	549 件	607 件	664 件

(オ) 精神疾患(日本海総合病院)

地域の精神科病院等との役割分担及び連携を図り、電気痙攣療法等の高度専門的な医療を提供した。

【実績】精神科電気痙攣療法の実施件数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
109 件	152 件	78 件

(カ) 小児・周産期医療(日本海総合病院)

a 二次周産期医療機関として、他の医療機関との機能分担及び連携を図り、ハイリスク分娩への対応など、周産期に係る高度な産科医療を提供した。

【実績】母体・新生児の救急受入れ状況

平成 28 年度			平成 29 年度			平成 30 年度		
母体	新生児	緊急帝王切開術	母体	新生児	緊急帝王切開術	母体	新生児	緊急帝王切開術
19 名	4 名	26 件	10 名	5 名	23 件	17 名	4 名	38 件

b 産科及び小児科の専門医の充実した体制により、地域の住民が安心して出産できる環境を提供した。また、三次周産期医療機関である山形県立中央病院及び鶴岡市立荘内病院との連携を図った。

【実績】母体・新生児の救急搬送患者数

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
母体	14 名	15 名	8 名
新生児	2 名	4 名	1 名

c 働きながらも無理なく妊婦健診が受けられるように、週1回の夕方妊婦健診を実施した。

【実績】毎週月曜日 16:時30分から18時まで(予約のみ) : 110件

(キ)回復期リハビリテーション(日本海酒田リハビリテーション病院)

脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等により障がいが生じた患者のADLを改善し、早期に在宅療養または社会復帰ができるよう、理学療法士等の増員を図るとともに、休日におけるリハビリテーションを実施するなど、集中的にリハビリテーションを提供した。

【実績】疾患別リハビリテーション実施状況

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
	実患者数	単位数 (回数)	実患者数	単位数 (回数)	実患者数	単位数 (回数)
脳血管疾患	258 名	82,014 回	224 名	85,353 回	230 名	91,890 回
運 動 器	183 名	44,051 回	207 名	59,826 回	222 名	60,268 回

(ク)在宅医療支援及び療養支援

a 日本海総合病院では、退院後、在宅療養へ患者が円滑に移行し、切れ目なくサービスを受けることができるよう、地域連携室及び医療福祉相談室において、地域の介護・福祉・医療機関との連携を図りながら、患者との退院調整業務を行った。

【実績】退院調整件数(日本海総合病院)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
他病院	969 件	946 件	996 件
在宅	13,878 件	14,506 件	14,337 件
介護老人保健施設	134 件	82 件	109 件
介護老人福祉施設	84 件	139 件	144 件
ショートステイ	137 件	103 件	87 件
有料老人ホーム	222 件	226 件	246 件
その他	118 件	99 件	98 件
合計	15,542 件	16,101 件	16,017 件

※平成 28 年度診療報酬改定により、各病棟に専任の退院支援職員を配置

- b 在宅患者が安心して地域で療養ができるよう、「大腿骨近位部骨折地域連携パス」及び「脳卒中地域連携パス」の運用により、関連施設や関連機関との診療情報の共有及び評価を行うなど連携を図り支援した。

【実績】地域連携診療計画加算算定件数(日本海総合病院)

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
295 件	248 件	276 件

- c 日本海酒田リハビリテーション病院は、訪問リハビリテーションの実施について検討し、地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネットとの調整を踏まえ、令和元年度からサービスを開始することとした。

- d 日本海酒田リハビリテーション病院は、在宅医療を行っている診療所等と連携を図り、入院治療が必要となった全ての患者 14 名の受け入れを行った。

【実績】診療所等からの入院患者の受入れ

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
22 名	23 名	14 名

(ケ) 一次医療とプライマリ・ケアの提供、充実（日本海八幡クリニック等診療所）

診療所が設置されている各地域において、日常的な病気やけが等の患者に医療とプライマリ・ケアを提供した。また、必要に応じて高度及び専門医療機関等に紹介を行った。

イ 高度医療機器の計画的な更新・整備（日本海総合病院）

- (ア) 高度専門医療等の充実のため、平成 30 年度は次のとおり医療機器の更新等を行った。

【実績】平成 30 年度の医療機器更新状況

診療科	機器名	備考
放射線部	放射線治療装置（リニアック）	更新
手術室	内視鏡手術支援ロボット	新規

- (イ) 高度医療機器については、装置の稼働率、設置に対する採算性、収支の予測を十分に行い更新した。

ウ 災害時や健康危機における医療協力（日本海総合病院）

- (ア) 平成 30 年 9 月 6 日に発生した北海道胆振東部地震に伴い、県からの要請を受けて 9 月 6 日～10 日に DMAT 隊員 6 名を現地に派遣し、避難所における業務支援及び本部活動を行った。また、日本赤十字社からの要請を受けて 10 月 8 日～12 日にこころのケア指導員 1 名を現地に派遣し活動を行った。

(イ) 庄内SCU(航空搬送拠点臨時医療施設)の運営協力として、山形県所有の庄内SCU医療用資機材を日本海総合病院で保管及び点検等を行い、要請に応じて速やかに使用できるように管理した。また、11月10日に開催された庄内空港SCU設置訓練に当院から17名が参加した。

(ウ) 災害拠点病院の機能を十分に発揮できるよう、災害時に必要な医療物資等の備蓄を実施するほか優先納入契約、飲料水の提供に関する協定を継続し、災害時医療体制の充実・強化を図った。また、患者及び職員の食糧備蓄の補充を行った。

【実績】 補充した主な食糧備蓄

単位：食数	患者	職員	合計
主食	1,625	1,625	3,250
おかず	1,590	1,590	3,180
補助食品	3,060	3,060	6,120
飲料水	2,520	2,520	5,040

(エ) 周辺地域で災害等が発生した場合に備え、災害対策委員会が主体となって、日本海総合病院の職員、委託業者及び地域の医療従事者を対象に災害医療研修及び訓練を次のとおり実施した。

【実績】 災害医療研修及び訓練

実施日	内容	参加人数
平成30年5月31日	(災害医療研修会) 災害医療の基礎とトリアージ	138名
平成30年6月21日	(災害医療研修会) 模擬患者を使ったトリアージ研修会	162名 (うち、院外協力14名)
平成30年7月24日	(災害医療研修会) 病院におけるBCP(事業継続計画)	114名
平成30年10月20日	災害対応実働訓練 協力：酒田地区広域行政組合消防本部 医療法人 健友会 本間病院 酒田市立酒田看護専門学校 鶴岡市立庄内看護専門学校	275名 (うち、院外協力56名)
平成30年12月5日	(災害医療研修会) 日本海総合病院における火災時の避難マップの作成	100名 (うち、院外協力27名)

他の機関が実施した災害医療訓練及び研修に参加するとともに、職員を講師等として派遣した。

【実績】他の機関が実施した災害医療訓練及び研修

訓練日程	内容	会場	参加人数
平成 30 年 5/12 (土)～5/13(日)	DMA T 技能維持研修 (東北ブロック①)	岩手医科大学	講師 1 名
平成 30 年 8/3(金)～8/5 (日)	大規模地震時医療活動訓練	熊本県・宮崎県 大分県	講師 2 名 訓練 5 名
平成 30 年 10/6(土)～10/7(日)	東北DMA T 参集訓練	秋田県	講師 2 名 訓練 5 名
平成 30 年 11/10(土)	庄内空港 S C U 設備運営訓練	庄内空港	講師 1 名 訓練 16 名
平成 30 年 12/22(土)～12/23(日)	DMAT ロジスティックチーム 隊員養成研修 (理論成熟論)	災害医療 センター	研修 1 名
平成 31 年 1/12(土)～1/13(日)	統括 DMA T 技能維持研修及び 技能維持研修	仙台市急患 センター	研修 6 名
平成 31 年 3/23(土)～3/24(日)	DMAT ロジスティックチーム 隊員養成研修 (応用編)	長岡赤十字 看護専門学校	研修 1 名

(オ) 地域住民の生命を脅かす新たな感染症や薬物・食中毒等の健康危機事象が発生した際に、関係機関との緊密な連携のもと迅速な対応ができるよう、山形県主催の「新型インフルエンザ等対策訓練」に参加し、新型インフルエンザ等感染症発生時の情報伝達経路について訓練を行った。また、庄内保健所主催の「新型インフルエンザ等感染症患者移送訓練」に参加し、患者搬送方法及び搬送経路について確認した。

【実績】

実施日等	訓練内容	関係機関
平成 30 年 11 月 9 日	新型インフルエンザ等対策訓練 (情報伝達訓練)	山形県危機管理対策課、庄内保健所、 庄内病院、日本海総合病院
平成 30 年 3 月 13 日	新型インフルエンザ等感染症患者 移送訓練	庄内保険所、酒田第一タクシー(株)、 日本海総合病院 11 名

エ 政策医療の実施(日本海総合病院)

(ア) 庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、当地域の民間の医療機関では導入が困難である、高精度放射線治療装置 (IMRT) の導入に向け整備を進めた。

(イ) 第二種感染症指定医療機関として、新型インフルエンザ等感染症発生時の入院患者受入体制を整備した。

- ・人工呼吸器 2 台、簡易陰圧装置 2 台、防護具 800 セットを配備

(ウ) 認知症疾患医療センター運営事業実施要綱に基づき、認知症疾患患者の専門医療相談、鑑別診断等を行った。

【実績】相談件数

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
新規相談件数	502 件	554 件	478 件
継続相談件数	342 件	340 件	293 件

(エ) へき地医療拠点病院として地域住民の医療の確保に努めた。飛島診療所においては、医師の出張診療及び TV 診療を行うとともに、救急患者については救命救急センターで受入れを行った。

【実績】飛島診療所出張診療 回数 (4 月～10 月)

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
21 回	16 回	16 回

(オ) 地域において必要性の高い救急医療、周産期医療、小児医療を担う医療機関として、各分野において新たに専門医の資格を取得するなど専門医の確保に努めた。

【実績】専門医資格及び取得者数等

専門医資格	人数
日本心血管インターベンション治療学会専門医	1 名
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医	1 名
日本内科学会総合内科専門医	1 名
日本消化器科学会消化器病専門医	1 名
日本脳卒中学会専門医	1 名
日本頭痛学会頭痛専門医	1 名
専門医資格の更新	15 名

(カ) 脳死下臓器移植について、院内コーディネーター及び関係部門が参加し、法的脳死判定時におけるシミュレーションを実施した。また、臓器移植の昨今の状況を学ぶため、研修を開催した。

【実績】

実施日等	研修内容等	参加人数
平成 31 年 2 月 27 日 I C U 及び 相談室	「法的脳死判定シミュレーション」 山形県立中央病院 副院長 森野 一真 氏	18 名
平成 31 年 3 月 5 日 講堂	「今、必要とされる臓器移植に関する知識と行動」 山形大学医学部腎泌尿器外科学講座 助教 西田 隼人 氏	50 名

(2) 医療スタッフの確保及び資質向上

ア 医療人材の確保・育成

(ア) 日本海総合病院は、高度専門医療等の安定的な提供を図るため、職員を研修又は学会等に派遣するなど、専門資格を有する医療従事者の確保・育成に努めた。

【実績】 主な参加研修等

リンパトレナージセラピスト講習会、アドバンス助産師、栄養サポートチーム専門療法士等

(イ) 日本海総合病院は、新専門医制度において内科領域及び産婦人科領域の基幹施設として、研修プログラムの管理を行い、内科専攻医 4 名を採用した。また、外科領域について、関連大学と調整の上、基幹施設としてプログラムを申請し、認定を受けた。

(ウ) 日本海総合病院は、臨床研修医 29 名、レジデント 33 名を受け入れ、医師の確保に努めた。

【実績】 臨床研修医及びレジデント受入れ人数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
53 名	61 名	62 名

(エ) 日本海総合病院は、地方独立行政法人那覇市立病院の 2 年次臨床研修医 1 名と日本海総合病院 2 年次臨床研修医 9 名の交換地域医療研修を実施した。

【実績】

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
日本海総合病院	4 名	8 名	9 名
那覇市立病院	1 名	2 名	1 名

(オ) 教育・研修体制の充実及び自己研鑽・研究のサポート体制の充実に努め、各職種の専門性の向上を図るため、年 4 回の役職別研修に加え、各部門独自で専門能力を高める研修や、特別研修としてメディエーション研修を実施した。

(カ) 優秀な看護師及び助産師を育成・確保するため、看護師等修学資金貸与を継続して行い、新規貸与者 6 名を含む計 17 名に修学資金の貸与を実施した。また、貸与終了者 8 名（うち、2 名は返還猶予期間中）のうち 6 名が当機構職員として入職した。

【実績】 修学資金の貸与

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
貸与者	14 名	16 名	17 名
入職者	2 名	2 名	6 名

(キ) 認定看護師の資格取得のため看護師 1 名を研修に派遣した。

【実績】 認知症看護認定看護師研修 平成 30 年 6 月～12 月

イ 事務職員の確保と専門性の向上

(ア) 診療情報管理士等の専門資格の取得及び研修の充実により、事務職員の資質向上を図った。

【実績】 専門資格の取得及び研修状況

診療情報管理士通信教育等受講 4 名 (うち診療情報管理士資格取得 3 名)

(イ) 病院運営の高度化・複雑化に対応できる組織を作るため、プロパー事務職員を対象に文書研修を実施し、専門的知識を高めた。また、中堅研修、メディエーション研修を実施し、医療職とともに病院運営に関わる重要性を学んだ。

ウ 職員の勤務環境の改善

(ア) 職員が仕事に誇りを持ち、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を確保し、意欲的かつ安心して業務に従事できる環境づくりとして、育児短時間勤務、病児・病後児保育、終夜保育などの活用を推進し、働きやすい職場作りに努めた。

【実績】 利用者数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
育児短時間勤務	1名	1名	1名
病児・病後児保育(職員延利用者)	90名	105名	92名
終夜保育 実人数	4名	4名	28名

(イ) 家族の介護や子育て等を行う医師への支援として、女性医師に対するベビーシッター等利用料の助成を行った。また、医師のキャリアパスに配慮し、短時間正職員制度など多様な勤務形態を継続して実施した。

【実績】 医師短時間職員制度等の利用状況

医師短時間	育児部分休業	ベビーシッター等助成金
3名	1名	2名

(ウ) 医師をはじめとする医療従事者の負担軽減を図るため、病棟及び外来に医師事務作業補助者(医事クラーク)を配置した。

【実績】 医事クラークの配置数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
64 名	64 名	66 名

(3) 医療サービスの効果的な提供

ア 地域連携の推進

(ア) 日本海総合病院は、良質な医療サービスを効果的に提供するため、庄内二次医療圏における中核的な医療機関としての役割を果たし、他の医療機関との連携の推進により、目標とする地域医療支援病院の指定要件である紹介率 50%かつ逆紹介率 70%以上を達成した。

【実績】 年度別 紹介率、逆紹介率 ※地域医療支援病院における算出方法による。(歯科口腔外科を含む。)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
紹介率	64.4%	65.5%	68.0%
逆紹介率	97.2%	100.5%	101.5%

(イ) 日本海総合病院は、山形県立こころの医療センターとの「医療連携及び緊急時の患者搬送措置に関する覚書」及び「医療観察保護法対象者の入院受入協定書」並びに医療法人山容会山容病院との「医療連携及び緊急時の患者搬送措置に関する覚書」に基づき、急性期医療が必要になった患者の受け入れに備えた。

(ウ) 患者の広域化に対応し、ICTを活用して地域、医療圏を超えた医療連携を推進するため、山形県地域医療対策課主催の医療情報ネットワーク全県化会議に参加し、平成 31 年 3 月に山形県医療情報ネットワークの広域化協定を県内 4 地域 5 協議会と締結した。

(エ) 地域包括ケアシステムの構築に向け、行政機関、地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関との積極的な情報交換や、退院時カンファレンスの取り組みの強化等により、医療から介護・福祉へと円滑かつ切れ目のないサービスの提供に努めた。

【実績】 指導件数 (日本海総合病院)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
退院時共同指導	90 件	84 件	138 件
介護支援連携指導	1,077 件	909 件	1,068 件

イ 診療情報の共有化

庄内二次医療圏全体で、効率的で適切な医療やケアを提供するため、地域医療情報ネットワーク等の ICT を活用し、他の医療機関や介護、福祉施設等との診療情報の共有化を推進した。また、調剤薬局間の連携として、平成 30 年 11 月からお薬情報共有システムを開始した。

【実績】 登録患者数等 ※平成 30 年度は、前年度比 5,580 名増

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
登録患者数	26,619 名	32,401 名	37,981 名
開示施設数	6 施設	7 施設	7 施設
閲覧施設数	171 施設	186 施設	198 施設

ウ 地域連携クリニカルパスの活用(日本海総合病院)

効率的で適切な医療を提供するため、患者への負担の軽減及び他の医療機関との機能分担を図りながら、地域連携クリニカルパスを継続して活用した。

【実績】 地域連携クリニカルパス適用件数

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
肺 が ん	0 件	0 件	0 件
大 腸 が ん	11 件	6 件	18 件
肝 が ん	0 件	0 件	0 件
乳 が ん	16 件	9 件	8 件
胃 が ん	19 件	10 件	13 件
大腿骨頸部骨折	128 件	105 件	117 件
脳 卒 中	195 件	149 件	159 件
心臓リハビリテーション	116 件	108 件	150 件
前立腺がん	65 件	24 件	32 件

(4) 教育研修事業の充実

ア 庄内地域における医療水準の向上(日本海総合病院)

(ア) 庄内二次医療圏の中核的な医療機関として、臨床研修医及びレジデントの受入れ、並びに、山形大学からのスチューデントドクター及び東北大学からの臨床医学修練生を受入れ、質の高い医療従事者の育成に努めた。

【実績】 臨床研修医等の受入れ状況

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
臨床研修医	28 名	34 名	29 名
レジデント	26 名	27 名	33 名
スチューデントドクター (山形大学)	75 名	70 名	85 名
臨床医学修練生 (東北大学)	1 名	5 名	2 名
地域医療実習生 (東北大学)	5 名	6 名	0 名

(イ) 酒田市立酒田看護専門学校の実習施設として、看護教員の養成のため、平成 30 年度看護教員養成研修に職員 1 名を派遣した。(研修期間 H30 年 6 月～H31 年 3 月)

(ウ) 救急医療の水準向上を図るため、救急救命士養成課程の臨床実習、就業前研修、再教育実習及び山形県消防学校救急科の病院実習を実施し、計 52 名の実習生の受入れを行った。

【実績】 実習生受入人数

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
臨床実習	3 名	3 名	3 名
就業前研修	5 名	1 名	1 名
再教育実習	41 名	39 名	38 名
病院実習	15 名	17 名	10 名
計	64 名	60 名	52 名

イ 住民意識の啓発活動(日本海総合病院)

(ア) 住民を対象としたセミナーとして、生涯学習施設「里仁館」で開催された健康講座に、職員を派遣するとともに、広報紙「あきほ」を年 4 回発行し、医療や健康に関する情報発信を行った。

【実績】健康講座

開催日	題名	講師
平成 30 年 5 月 9 日(水)	便秘症治療について	須田 健生医師
平成 30 年 6 月 13 日(水)	最近のトピックス	田村 梨紗医師
平成 30 年 7 月 4 日(水)	認知症について	大阪 恵理子認定看護師

(イ) 住民の健康意識の向上のため、地域住民を対象とした市民公開講座を開催し、がんに関する情報提供を行った。

【実績】市民公開講座

実施日等	内容等	参加人数
平成 30 年 8 月 26 日 ホテルリッチ & ガーデン酒田	がん患者の「食べる喜び」を支えつづける (講師：大妻女子大学 家政学部 食物学科 臨床栄養管理教室 川口 美喜子氏)	113 名

3 患者・住民の満足度の向上

- (1) 日本海総合病院は、患者やその家族のニーズを把握するためアンケート調査を実施した。
- (2) 日本海総合病院は、院内環境等の向上を図るとともに、入院手続きの改善を図るため、予定入院患者に対して看護師による入院前スクリーニングを実施し、入院時の問診の簡略化とスムーズな入院体制の構築を図った。
- (3) 山形県地域医療構想を踏まえ、それぞれの病院及び診療所の役割等を、ホームページ、病院広報紙「あきほ」及び市広報等を活用して PR を行った。

4 法令等の遵守と情報公開の推進

- (1) 職員一人ひとりが、山形県・酒田市病院機構倫理綱領及び法令順守意識の徹底のため、コンプライアンス等の職員研修を実施し周知徹底に取り組んだ。
- (2) 山形県・酒田市病院機構における各病院等の経営状況を病院概要の発行及びホームページで公表した。
- (3) カルテ等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもとに、県の機関に準じて行った。

【実績】診療情報提供申出件数 (日本海総合病院)

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
60 件	56 件	61 件

(4) 適切な情報管理や情報セキュリティ対策の強化を図るため、新規採用職員及び「ちょうかいネット」利用者等を対象に研修会を開催した。

また、インターネットを経由したサイバーテロの増加に伴い、酒田警察署と共同でサイバーテロ対応訓練を実施した。

【実績】 研修会等の実施

- ・電子カルテへのアクセス履歴監査（強化月間）
- ・新規採用職員に対しセキュリティ研修会
- ・ちょうかいネット新規参加の介護事業者に対してセキュリティ研修会
- ・ちょうかいネット全参加施設に対してセキュリティ研修会
- ・酒田警察署と共同でサイバーテロ対応訓練

【実績】 ちょうかいネットセキュリティ研修会実施状況

対象者	参加状況
新規に参加した介護事業者等	19 施設・40 名
全参加施設	19 施設・30 名

5 医療安全対策の充実・強化

(1) 医療安全対策の充実・強化を図るため、医療安全対策委員会を中心に以下のような研修会を開催した。また、医療安全管理者を中心に、各部署の医療安全推進者（リスクマネージャー）と連携しながら、インシデントの事例共有、分析、改善策について検討し、医療安全対策の質の向上に努めた。

【実績】 医療安全対策委員会研修会

実施日等	研修内容等	参加人数
平成 30 年 6 月 15 日 日本海総合病院講堂	第 1 回医療安全全体研修会 「医師 GMR が考える医療安全～事故防止から質の向上へ～」 東北大学病院 医療安全推進室 室長 藤森 啓成 先生	208 名
平成 30 年 10 月 5 日 日本海総合病院講堂	第 2 回医療安全全体研修会 「組織で考える医療安全」 上尾中央総合病院 情報管理特任副院長 長谷川 剛 先生	198 名

院内感染の防止を図るため、感染制御チーム及び院内感染対策委員会を中心に研修会を開催した。

【実績】 院内感染対策研修会

実施日等	研修内容等	参加人数
平成 30 年 6 月 20 日 日本海総合病院 2 階講堂	第 1 回院内感染対策研修会 「これからの感染制御を考える」 講師：愛知医科大学大学院医学系研究科臨床感染症学 主任教授 三嶋 廣繁氏	202 名 (うち院外 9 名)

<p>平成 30 年 11 月 26 日 日本海総合病院 2 階講堂</p>	<p>第 2 回院内感染対策研修会 『インフルエンザ up to date 2018/19』 講師：川崎市健康安全研究所 所長 矢野 邦夫先生</p>	<p>180 名 (うち院外 2 名)</p>
--	---	-----------------------------

(2) 必要に応じて医療安全マニュアル及び院内感染対策マニュアルの改訂を行い、速やかに院内周知を行った。

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 組織マネジメントの強化

運営委員会、診療部代表者会議、経営会議及び業務改善委員会等を定期的に開催し、組織マネジメントの強化に努めた。

2 診療体制の強化、人員配置の弾力的運用

(1) 医療需要の変化等に迅速かつ的確に対応するため、定期及び臨時の人事異動並びに各病院間等での人事交流等により適材適所の配置に努めた。

(2) 医師短時間正職員制度により、医師がキャリアを中断することなく安心して意欲的に勤務できるよう努めた。

【実績】医師短時間正職員制度利用者

放射線医師 1 名

循環器内科医師 1 名

内科医師 1 名

3 経営基盤の安定化

(1) 収入の確保

ア 平成30年度における、1日あたりの患者数、病床利用率等は次のとおりであった。

【患者動向】

区 分	日本海総合病院			日本海酒田リハ病院			診療所			計		
	H29	H30	増減	H29	H30	増減	H29	H30	増減	H29	H30	増減
延入院患者数 (人)	188,013	190,615	2,602	36,962	36,933	△29	-	-	-	224,975	227,548	2,573
新入院患者数 (人)	16,785	16,665	△120	588	626	38	-	-	-	17,373	17,291	△82
入院/1日(人)	515.1	522.2	7.1	101.3	101.2	△0.1	-	-	-	616.4	623.4	7.0
病床利用率 (%)	81.8	82.9	1.1	88.8	88.8	0	-	-	-	-	-	-
病床回転率 (%)	271.6	266.8	△4.8	49.1	51.5	2.4	-	-	-	-	-	-
平均在院日数 (日)	11.2	11.4	0.2	62.0	59.1	△2.9	-	-	-	-	-	-
延外来患者数 (人)	345,801	344,090	△1,711	723	357	△366	23,359	21,933	△1,426	369,883	366,380	△3,503
新外来患者数 (人)	28,310	27,914	△396	60	36	△24	1,414	1,284	△130	29,784	29,234	△550
外来/1日(人)	1,417.2	1,410.2	△7.0	3.0	1.5	△1.5	105.6	78.9	△26.7	1,525.8	1,490.6	△35.2
延通所リハ利用 者数(人)	-	-	-	4,046	3,871	△175	-	-	-	4,046	3,871	△175
通所リハ/1日 (人)	-	-	-	16.6	15.9	△0.7	-	-	-	16.6	15.9	△0.7
延訪問看護利 用者数(人)	-	-	-	-	-	-	2,928	2,737	△191	2,928	2,737	△191
訪問看護/1日 (人)	-	-	-	-	-	-	8.9	8.9	0	8.9	8.9	0
病床数	630	630	0	114	114	0	-	-	-	744	744	0

【患者1人1日当たりの診療単価(税抜)】

単位：円

日本海総合病院	H29	H30	増減	日本海酒田リハ病院	H29	H30	増減
入院	68,113	68,587	474	入院	27,887	29,212	1,325
外来	15,276	15,869	593	外来	3,682	6,363	2,681
日本海八幡クリニック等診療所			H30				
外来			7,591				

【目標値】

	入院 患者数	外来 患者数	病床 利用率	平均在院 日数	入院 診療単価	外来 診療単価
日本海総合病院	516人/日 以上	1,300人/日 以上	80%以上	12.0日以内	62,000円/日 以上	13,000円/日 以上
日本海酒田リハビ リテーション病院	102人/日 以上	3人/日以上	90%以上	-	26,000円/日 以上	3,000円/日 以上
日本海八幡クリニ ック等診療所	-	80人/日以上	-	-	-	8,000円/日 以上

イ 診療報酬請求の請求漏れや査定による減点等を防止するため、診療報酬点検委員会において迅速に対策を行い、改善事項については速やかに院内周知を行うなど、チェック体制の強化を図った。

ウ 診療報酬改定等をはじめ各種制度の変化に迅速に対応し、施設基準の取得により増収を図った。

エ 個人医療未収金の回収については、弁護士法人への業務委託などにより、早期回収に努めた。また、入院会計を可能な限り、即日発行するなど、未収金の発生防止に努めた。

(2) 費用の抑制

職員給与費比率、材料費比率等の目標値を次のように定め、費用の抑制に努めた。

また、後発医薬品の数量シェアについては、国による目標値の達成に努めた。

【営業収益に占める主な費用の比率】

	職員給与費	材料費	うち薬品費
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	44.2%	27.4%	14.9%
日本海酒田リハビリテーション病院	72.2%	2.1%	1.3%
日本海八幡クリニック等 診療所	77.8%	18.7%	17.0%
病院機構全体	46.1%	25.9%	14.2%

【営業収益に占める主な費用の比率の目標値】

	職員給与費	材料費	うち薬品費
日本海総合病院 (法人管理部を含む。)	46.1%以内※	28.5%以内※	15.4%以内※
日本海酒田リハビリテーション病院	70%以内	4%以内	3%以内

※総務省が公表している「平成28年度地方公営企業決算状況調査」における全国500床以上の黒字公立病院の平均値

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支及び資金

収支の実績

収支は次のとおりであった。

【営業収支比率及び経常収支比率】

	営業収支比率	経常収支比率
日本海総合病院 （法人管理部を含む。）	104.5%	104.1%
日本海酒田 リハビリテーション病院	87.6%	92.7%
日本海八幡クリニック等 診療所	69.1%	107.7%
病院機構全体	102.9%	103.4%

【営業収支比率及び経常収支比率の目標値】

	営業収支比率	経常収支比率
日本海総合病院 （法人管理部を含む。）	100%以上	100%以上
日本海酒田 リハビリテーション病院	80%以上	80%以上
日本海八幡クリニック等 診療所	55%以上	100%以上
病院機構全体	100%以上	100%以上

1 予算及び決算

（単位：百万円）

区分	予算額 （当初）	決算額	差額 （決算 - 予算）
収入	23,643	24,665	1,022
営業収益	20,056	21,030	974
医業収入	19,481	20,420	939
運営費負担金	575	610	35
営業外収益	1,150	1,227	77
運営費負担金等	902	998	96
その他	248	229	△19
資本収入	2,426	2,399	△27
金銭出資の受入	997	997	0
長期借入金	1,413	1,376	△37
その他	16	25	9
その他の収入	11	10	△1

(単位：百万円)

区分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
支 出	23,612	23,954	342
営業費用	19,065	19,589	524
医業費用	18,870	19,407	537
給与費	9,726	10,129	403
材料費	5,726	5,892	166
経費	3,294	3,286	△8
研究研修費	124	100	△24
一般管理費	195	182	△13
営業外費用	256	249	△7
資本支出	4,290	4,115	△175
建設改良費	2,573	2,358	△215
長期借入金返還金	1,708	1,747	39
修学資金貸付	9	10	1
その他の費用	1	1	0

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収 入	21,197	22,244	1,047
営業収益	20,047	21,007	960
医業収益	19,450	20,389	939
運営費負担金収益	575	610	35
資産見返補助金等戻入	22	8	△14
営業外収益	1,139	1,217	78
運営費負担金収益	902	998	96
その他医業外収益	237	219	△18
その他の収入	11	20	9
支 出	21,166	21,500	334
営業費用	20,068	20,415	347
医業費用	19,886	20,246	360
一般管理費	182	169	△13
営業外費用	1,082	1,069	△13
その他の費用	16	15	△1
純 利 益	31	744	713

3 資金計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
資金収入	33,294	42,275	8,981
業務活動による収入	21,233	22,312	1,079
診療業務による収入	19,482	20,482	1,000
運営費負担金による収入	1,476	1,608	132
補助金等収入	99	55	△44
その他の業務活動による収入	176	167	△9
投資活動による収入	4,300	10,311	6,011
有価証券の売却による収入	1,800	6,900	5,100
補助金等収入	0	8	8
定期預金の払出による収入	2,500	3,400	900
その他の投資活動による収入	0	3	3
財務活動による収入	2,411	3,080	669
長期借入による収入	1,414	1,376	△38
金銭出資の受入による収入	997	1,705	708
前年度からの繰越金	5,350	6,572	1,222
資金支出	27,912	35,687	7,775
業務活動による支出	19,322	19,542	220
給与費支出	9,805	9,950	145
材料費支出	5,726	5,835	109
その他の業務活動による支出	3,791	3,757	△34
投資活動による支出	6,882	14,398	7,516
有形固定資産の取得による支出	2,573	1,451	△1,122
無形固定資産の取得による支出	0	71	71
有価証券の取得による支出	1,800	11,065	9,265
定期預金の預入による支出	2,500	1,800	△700
その他の投資活動による支出	9	10	1
財務活動による支出	1,708	1,747	39
長期借入の返済による支出	971	1,010	39
移行前地方債償還債務等の償還による支出	737	737	0
翌年度への繰越金	5,382	6,588	1,206

第4 短期借入金の限度額

短期借入金の実績なし

第5 剰余金の使途

平成30年度の決算剰余金については、建設改良積立金に充当し将来の施設整備及び医療機器の整備に備えた。

第6 料金に関する事項

- (1) 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構使用料及び手数料規程に基づき使用料の徴収を行った。

第7 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する事項

- (1) 医療需要の変化や医療政策の動向を踏まえ、8回の職員採用試験を実施し、医療従事者の確保に努めた。

【実績】採用者人数（平成30年度採用試験）

職 種	平成31年1月採用人数
臨床工学技士	1名

職 種	平成31年4月採用人数
看護師	37名
臨床検査技師	1名
理学療法士	2名
作業療法士	1名
言語聴覚士	1名
管理栄養士	2名
臨床工学技士	1名
社会福祉士	1名
事務職	2名
合 計	48名

- (2) 能力や経験等に対する評価として、認定看護師や専門薬剤師等に資格手当を支給し、また、学会への参加、看護師特定行為研修の受講及び受講料等を負担するなど、職員のモチベーションの向上を図り、認定看護師資格の新規取得など、将来の病院運営を担う人材を育成した。

【実績】

新規認定看護資格取得者 2名

特定行為研修修了者 1名

(平成30年度現在認定看護師及び専門薬剤師数)

認定看護師 20名、専門薬剤師 7名

2 職員の就労環境の整備に関する事項

- (1) 職員一人ひとりが、それぞれの分野で専門知識や能力を十分に発揮できるよう、多職種によるチーム医療の推進を図った。

平成 30 年度は、がんサージカルボードを合計 23 回開催した。また、遺伝カウンセラーを採用し専門知識を生かし各診療科と連携した医療を提供した。

【実績】 遺伝カウンセリング等件数

遺伝カウンセリング 89 件

遺伝学的検査 15 件

- (2) 職員の心理的負担を把握するためのストレスチェック後の面接指導を実施し、更に「職場環境改善に関する意見書」を所属部門に提出するなど、メンタルヘルス対策の充実を図った。また、80 時間超えの面談の勧奨に加え、100 時間超えは面談必須とした。

- (3) 不適切な言動、行為等に起因する、職員の精神的・身体的損害及び生産性の低下を防止するため、ハラスメント相談窓口を活用し、職場環境を改善する体制を整備した。

- (4) 院内保育所「あきほ保育園」では、年末・年始（12月29日から1月3日まで）を除き、24時間保育を実施した。また、継続して病児・病後児保育事業を酒田市から受託し、当該事業を活用し職員の就労環境の向上に努めた。

【実績】 院内保育所「あきほ保育園」利用者数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
28 名	29 名	29 名

【実績】 院内保育所「あきほ保育園」終夜利用者数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
4 名	4 名	28 名

3 医療機器・施設整備に関する事項(日本海総合病院)

- (1) 高度医療機器においては、費用対効果、地域の医療需要、他の機関との機能分担、医療技術の進展などを総合的に判断し更新及び整備を行った。
- (2) 建物診断の結果に基づき策定した中長期修繕計画に従い、緊急度が高い設備の修繕工事を以下のとおり行った。

【実績】主な修繕工事

工事名	契約額 (円)	概要
空調機ユニット更新工事	59,076,000	耐用年数の超過及び塩害により劣化している空調機(6基)を更新した。
ファンコイルユニット交換工事	44,712,000	耐用年数の超過及び塩害により劣化しているファンコイルユニット(100台)を更新した。
貯湯槽更新工事	38,880,000	エネルギー棟1階に設置している貯湯槽(3基)を更新した。
電話交換機更新工事	96,085,440	主電話交換機(1基)、PHS用交換機(1基)、院内各所に設置しているPHSアンテナ(132台)を更新した。
電気時計設備親機更新	14,796,000	電気時計設備の本体システム及び子時計(197台)を更新した。
エレベーター更新工事	77,220,000	耐用年数の超え、部品供給が終了したエレベーター2機(6号機・8号機)を更新した。
合計	330,769,440	

- (3) 高額な医療機器等の更新及び整備については、償還等の負担を十分に考慮し、中長期的な投資計画(整備計画)のもとに行った。

【医療機器・施設整備の計画】 (単位：百万円)

区分	実績	財源
資本支出		
建設改良費	2,358	設立団体からの 長期借入金等
施設整備	867	
医療機器等	1,491	

- (4) 日本海八幡クリニック等診療所は、平成30年度における医療機器及び施設の整備等の実施はなかった。
- (5) 地域の医療ニーズに対応するため、今後の診療提供体制を考慮し、外来診察室等の改修計画等について検討した。

4 積立金の使途

前期中期目標期間の繰越積立金は、施設の整備、医療機器の購入等に充てた。

5 その他法人の業務運営に関する事項

- (1) 日本海総合病院は、酒田市、公益財団法人やまがた健康推進機構及び診療所等との連携及び機能分担のもと、がん検診をはじめ地域の検診体制の充実を図った。

また、酒田市が実施している「内視鏡ドック」のうち、次の項目を継続して担った。

【実績】内視鏡ドック件数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
上部内視鏡	107件	115件	101件
下部内視鏡	105件	115件	98件
胸部CT	107件	115件	101件

【実績】PET/CT 検診件数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
PET/CT	36件	60件	52件

一般社団法人酒田地区医師会十全堂及び公益財団法人やまがた健康推進機構との連携、機能分担のもと、地域住民の検診を行った。

日本海総合病院は、酒田市へのふるさと納税の返礼品として、納税額に応じた3種類の人間ドックを実施した。

- (2) 病児・病後児保育事業を酒田市から受託し、「庄内北部定住自立圏形成協定」に則って三川町、庄内町及び遊佐町に在住の乳幼児等も受け入れる体制を整え、日曜日、祝日、年末年始休業(12/29～1/3)を除き、通年で事業を継続して実施した。また、事前に医療機関の診察を受けていない利用者の受入れ及び保育園等からの送迎サービスについて、平成31年度からの本格実施に向けて試験運用を実施した。

【実績】病児・病後児保育事業延べ利用者数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
延べ利用者数	246名	300名	251名
うち職員延利用者数	90名	105名	92名